

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center



CONTENTS

- | | | |
|------------------------|------------------------|------------------------|
| ■院長挨拶 ① | ■地域周産期母子医療センター ⑤ | ■近隣の連携医療機関の先生方 ⑨ |
| ■平成30年度患者満足度調査 ② | ■地域保険薬局との情報連携 ⑦ | うまほり西田歯科医院 和田眼科 |
| ■赴任医師の紹介 ② | ■公立南丹看護専門学校 ⑧ | ■入院される皆さまへ ⑩ |
| ■働き始めて ③ | ■かかりつけ医を持ちましょう ⑧ | ■Information ⑩ |

地域医療支援病院 臨床研修指定病院
 救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
 地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
 地域周産期母子医療センター ヘき地医療拠点病院
 京都府地域リハビリテーション支援センター
 京都府災害拠点病院 (地域災害医療センター)
 DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター
 エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
 TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2019.7
Vol.43
夏号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して医療を行います。
2. 地域医療支援病院として地域の医療、介護や福祉等との連携を推進します。
3. 救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を目指します。
4. 集学的医療の提供を推進し、地域で完結できる高度ながん医療を行います。
5. チーム医療を強化し、医療の質や安全性の向上のため、全ての職員が資質の向上に努めます。
6. 公営企業としての役割を果たすため、経営の効率を高め、健全な経営に努めます。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

第54回京都病院学会を終えて

院長 辰巳 哲也



美しい新緑の季節とともに、また暑い夏が私たちの地域に訪れました。今年も5月に入るとまるで夏日のような暑い日が続きました。日本は春や秋が短くなり四季の国からまるで二季の国になったような気さえ致します。7月になると昨年の西日本での豪雨災害が思い出されます。地域災害拠点病院としてこれまでの教訓を生かしながら、局地的な大雨や地震などの自然災害に十分備えていきたいと考えています。厳しい暑さも予想されますので、皆様におかれましては、熱中症などに十分ご注意ください、お身体を御自愛ください。

さて令和元年6月9日には第54回京都病院学会が池坊短期大学で開催され、京都府病院協会と京都私立病院協会に加盟する会員病院から、様々な職種の方々にご発表をいただきました。今回は507題という過去最高の演題を応募いただき、また2,404名もの多くの皆様にご来場いただいたことをこの場をお借りして心より御礼申し上げます。学会の基本テーマは超高齢社会における地域包括ケアの充実に向けた医療連携としました。基調講演では東京大学の秋山弘子先生に「長寿社会の課題と可能性」についてお話をいただきました。長寿社会のフロンランナーである日本は、ジェントロジー（総合長寿学）を通して、健康寿命を延ばしてサクセスフルエイジングを達成することの必要性や、“Aging in Place”（住み慣れた所で安心して自分らしく年をとる）を実現するために、就労機会の提供やフレイル予防を行い、生き活きとしたセカンドライフが送れる長寿社会の街づくりを目指した取り組みについて述べられました。個人の生き方を見直すとともに社会制度やインフラを超高齢社会に合わせて再構成していくことの重要性を改めて認識させていただきました。

特別講演では産業医科大学の松田晋哉先生に「京都府における地域医療構想と地域包括ケアの課題」と題して、公開された医療情報を用いて、1) 人口推移（将来の疾病構造）、2) 急性期医療の現状、3) 機能別医療提供体制の相対的過不足などを分析することで、各地域での今後の課題や病院の果たすべき役割がかなり見えてくることを教えていただきました。京都府における外来・入院患者、介護需要の現状分析と将来推計から、高齢社会が進むことで脳血管疾患、肺炎、骨折、心不全などが増える疾病構造の変化が生じ、病院のニーズも多様化していくことが予測されました。今後、京都府では療養・在宅など慢性期の医療需要がさらに必要となり、医療と介護の複合化を踏まえたサービスの提供体制が重要となると述べられました。私も日々の臨床の中で高齢患者さん特有の疾病多様性や心不全パネミックが生じつつあることを実感しながら、介護・福祉施設との連携の重要性を再認識させていただきました。医療圏ごとでの急性期～慢性期、外来・在宅医療の現状と課題も提起していただきました。さらに働き方改革にも触れていただき、医療従事者がそれぞれ本来の職務に集中できる環境づくりや、病院機能分化と連携の重要性を述べられました。ドイツなどにみる医療職での交代制勤務のお話は印象的で、今後の日本でも医療従事者だけではなく、社会全体での意識変革の必要性が求められると改めて感じました。

要望演題「地域包括ケア充実に向けた医療連携」、継続演題「人生の最期により添う」なども充実した内容のご発表が多くありました。一般演題も優秀なご発表が多くあり、超高齢社会における地域包括ケアを充実させていくためのヒントが込められた実りある学会になったかと思います。また約半年をかけて学会運営を支えていただいた京都私立病院協会事務局の皆様、会員病院から選ばれて理事、実行委員、準備委員をお勤めいただいた方々には準備から当日の運営まで本当にお世話になりました。学会長という貴重な機会を与えていただき、学会に係わられたすべての皆様に心より深く御礼申し上げます。

高齢者が増えていく社会において、ご高齢の方々が健康寿命を延ばし元気に働ける世の中を本気で構築して欲しいものです。池坊短期大学で準備委員の方々と学会前日の夕方に会場の準備をしていると祇園囃子が遠くに聞こえ、京都ならではの夏の風情を感じました。皆様の夏が今年も楽しい思い出となりますようにお祈りしております。

平成30年度患者満足度調査

副看護部長・業務改善委員会 藤阪 みさ代 ふじさか みさよ

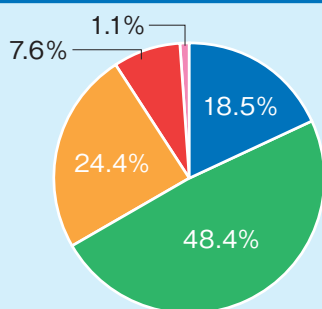
当院では、患者さんへのサービス向上を図るため、定期的に患者満足度調査を実施しています。平成30年度の調査結果をご報告します。ご協力いただきました患者さん、ご家族の皆さんには厚くお礼申し上げます。

平成31年2月18日から平成31年3月1日までの期間、外来患者さん668名、入院患者さん141名にご回答いただきました。今回の調査を通じて、患者さん、ご家族の皆さんから頂戴した感謝や励ましのお言葉を糧に、一層のサービス向上に取り組む次第であります。

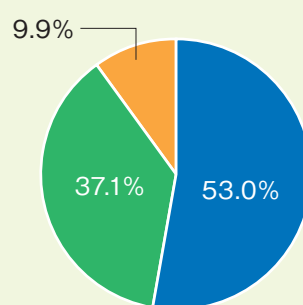
また今回、総合満足度の推移を平成28年度調査分から掲載しております。大きな数値の変動がなく経過していることを、皆さんからの、もっと良い病院にとの期待が含まれていると思い、サービス向上に向けて改善活動に取り組んで参ります。患者さんやご家族の方々はじめ、病院を利用される皆さんにはどうぞ引き続きのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成30年度

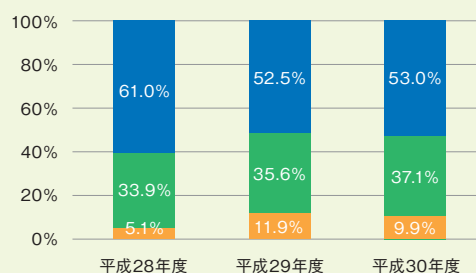
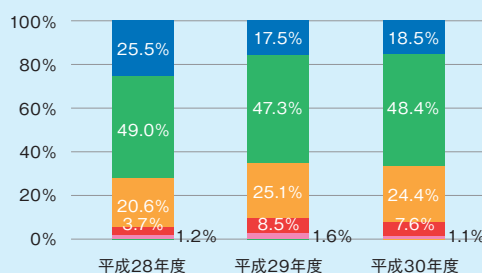
外来患者満足度



入院患者満足度



年次推移



■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満

赴任医師の紹介

泌尿器科 部長 金沢 元洪 かなざわ もとひろ

平成8年に京都府立医科大学を卒業し、これまで京都府立医科大学および関連施設で泌尿器科疾患全般、特に悪性腫瘍の治療を中心に研鑽を積んでまいりました。これまでの経験を生かして、地域の医療に貢献できるよう精進してまいります。よろしくお願いいたします。



京都中部総合医療センター 新人職員のメッセージ

今年も多くの新人職員が病院スタッフとして、それぞれの部署で働き始めています。これからも地域の皆さんの健康を支える医療チームの一員として努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



研修医 Resident

えがみ まさし
江上 正史

地域医療を支えたいとの思いから研修を開始して、早くも数ヶ月が経過しました。医師として最初の二年間は研修医として患者さん一人ひとりと向き合う中で、より良い医療を提供するにはどうすれば良いのかを考えながら、不足している知識や技術の習得に努めています。まだまだ至らない点も多いですが、地域の皆さまの健康を支える使命と責任を胸に日々精進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

看護師 Nurse

さかい ゆい な はしの ゆかり つちはし ゆか
酒井 結菜 橋野 由香里 土橋 侑佳

入職してから3ヶ月がたちました。慣れない環境の中で不安や、戸惑うことも多いですが、先輩方からやさしく声をかけて、指導していただけるおかげで少しずつできることも増えてきました。今は学んだことや疑問に思ったことの振り返りを行っています。これから向上心を持って、少しでも患者さんに寄り添った看護を提供できるように積極的に取り組んでいきたいと思ひます。



作業療法士 Occupational Therapist

まつぐ さよ いわうち ももか
真継 紗代 岩内 百花

リハビリを受けておられる患者さんは、病気や怪我により今までできていたことが困難となり、心身ともに不安を抱えながら生活をされています。作業療法士として患者さんができなくなったことや、やりたいことなどを実現できるように1人ひとりにあったアプローチを考え、日々努力します。日常生活動作訓練を実施することにより、日常生活が少しでも楽しく、たくさんの笑顔が見られるように頑張っています。

理学療法士 Physical Therapist

おおた しゅんすけ ひらい ゆり
大田 隼介 平井 友梨

地域の中核を担う当院で理学療法士の第一歩を踏み出すことができ、大変うれしく思ひます。リハビリテーション科は約50名の先輩方が在籍しておられ、相談しやすい環境があります。この恵まれた環境に感謝し、周りの先輩方にご指導いただきながら自己研鑽に励みたいと思ひます。そして、一日でも早く患者さんやスタッフから信頼される理学療法士になりたいと思ひます。

また、患者さんと向き合い緊張している時間や、患者さんのために何ができるかを考える今の気持ちを忘れず、理学療法士として大きく成長していきたいと思ひます。



看護助手 *Nursing Assistant*

えのもと まさ き たけうち り さ
榎本 将己 竹内 理沙

前職は介護職として利用者さんの生活援助を、当院では患者さんの退院にむけたサポートをさせていただいています。まだまだ未熟ですが優しい先輩方の御指導の下で日々学んでいます。患者さんが安全に安楽に入院生活を過ごしていただけるように、他職種のスタッフと連携し患者さんに寄り添ったケアを提供できるよう努力していきたいと思っています。



医療ソーシャルワーカー *Medical Social Worker*

たかはし
高橋 さやか

地域医療連携室の医療ソーシャルワーカーとして入院された患者さんの退院までの支援をさせていただいております。入院から退院まで、患者さんの心配や不安はもちろんのこと、ご家族も様々な心配や不安を抱えておられると思います。退院後の生活の不安や心配事を一緒に解決していけるよう支援させていただきたいと思っています。

まだまだ勉強中の身ではありますが、病院理念でもあります患者さん中心の医療に取り組み、地域の皆さまに愛され、信頼される病院を目指す一員として、社会福祉の立場から患者さんやそのご家族の方々のために頑張りますのでよろしくお願いいたします。

診療情報管理士 *Health Information Manager*

まつうら
松浦 つかさ

新しい環境で不安ばかりですが、先輩方の姿勢をみて気を引き締めています。診療情報管理士の業務は、診療録の点検や診療情報のデータ化とその活用、診療情報の提供など多岐にわたります。仕事をするにあたり、病院の運用や診療報酬の算定条件など、たくさんのことを理解する必要があります。未熟ではありますが、知識の修得に努め、医療の質の向上に貢献できるよう頑張ります。



事務職員(医事課) *Medical Department*

おにつか たつ や
鬼塚 達也

上司や先輩方にも恵まれ、病院での雰囲気にもようやく慣れてきました。私の所属している医事庶務係にはその名前の通り、幅広い業務があります。院内の業務のほか、窓口で対応する機会も増え、患者さんに直接ご説明させていただくことも多くなってきました。充実した毎日が送れるよう貪欲に知識を吸収して、業務に活かしていきたいと考えています。まだまだ至らない点も多いと思いますが、日々精進して参ります。

地域周産期母子医療センター

当院は地域周産期母子医療センターとして指定されています。地域周産期母子医療センターの「周産期」とは出産の前後の時期という意味です。産科と新生児科（小児科）両方の医療が必要になる時期で、周産期センターはその両方が組み合わされた施設です。平成8年から、国が助成する事業として支援するようになり、本院も病棟・外来・救急室や手術室などの設備面や24時間の当直体制など、地域の周産期にある皆さんが安心して出産の前後を過ごせるように常に準備しています。



産婦人科部門

つちや ひろし
産婦人科部長 土屋 宏



産婦人科医師

産婦人科では、出産に関してはできるだけ自然な分娩と安全な分娩を心掛けています。しかし予定日超過や破水、微弱陣痛などでは、赤ちゃんのために患者さんに説明し同意していただいてから、慎重に管理しながら陣痛促進剤も使用しております。また、当直医が24時間待機しており、当院の患者さんの分娩はもちろん他院からの妊娠30週以降の救急母体搬送にも対応しています。さらに当直医以外にも緊急帝王切開に対応できるように、もう一人の医師が呼び出しに対応できるようにもしています。そして赤ちゃんが出てくるときに状態が悪いと予想される場合には小児科医に立ち合いを依頼します。

分娩においては、赤ちゃんが出てきたときに予想外に状態が悪いこともあり、これに対応するために日本周産期・新生児学会の新生児蘇生法講習会を催すなどして看護スタッフとともに備えています。

小児科部門

いとう ひさと
小児科部長 伊藤 陽里



小児科医師

小児科では全員一丸となって、子供たちの命と健康を守るべく日々働いております。在胎30週以降、出生体重1kg以上の出生児であれば24時間365日対応いたしますし、さらに集中治療が必要な状態であれば対応可能な高次医療施設へ責任をもって搬送させていただきます。また院内出生だけでなく、近隣で開業されている産婦人科医院で調子の悪い赤ちゃんがいれば当院の救急車で迎えに行きます。夜中のトイレや、京都縦貫道のサービスエリアなど思いがけない場所や時間での出産があっても、当院で対応しできる限りの処置を行って救命してきました。この姿勢はこれからも変わる事はありません。

当医療圏に生まれてくれた大切な子供たちの健やかな成育を願い、これからも日々頑張っていく所存です。今後とも宜しくお願いいたします。

地域のお母さんと赤ちゃんを守るために

地域周産期母子医療センターの産婦人科病棟では、通常のお産への対応はもちろん、近隣病院からの妊婦や産後の緊急事態、緊急手術、生後すぐに治療の必要な赤ちゃんの受け入れなどに、常時対応できるように、医師・助産師・看護師は常に研修やカンファレンスを重ねています。



新生児蘇生法講習会



助産師・看護師を募集しています。
私たちと一緒に地域のお母さんと赤ちゃんのために働いてみようと思われる方は、いつでもご連絡ください。

お問い合わせ先

京都中部総合医療センター
総務課 人事係
TEL 0771-42-2510(代)



地域の周産期の問題に対応すべく、市役所や保健所、家庭支援センターとも連携し必要時にはカンファレンスを行い情報を共有しています。時には救急救命士さんたちとも、話し合いや合同研修をして、様々なお産や赤ちゃんの安全を守ることができるよう心がけています。



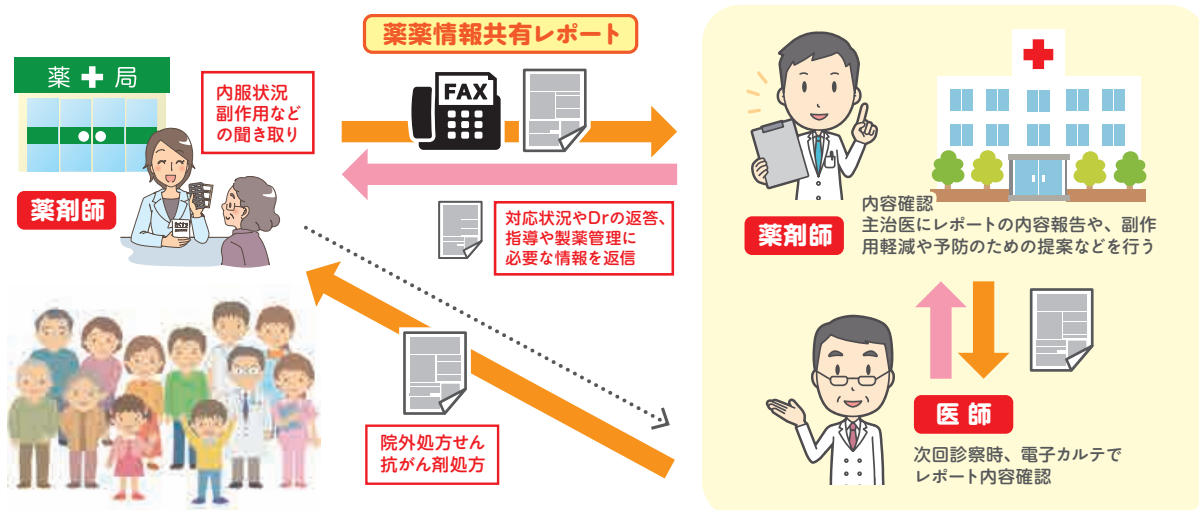
地域保険薬局との情報連携

経口抗がん剤のプロトコールに基づく薬物治療管理

薬剤部・医薬品情報部門長 武田 智子^{たけだ ともこ}

近年、より効果の高い経口抗がん剤（飲み薬の抗がん剤）が開発され医療制度も大きく変わり、外来で抗がん剤治療を受ける患者さんがかなりの割合を占めるようになってきています。ただ、経口抗がん剤にもそれぞれの薬に特徴的な副作用が起こることがあり、重い副作用が出てしまうと休薬せざるを得なくなり、治療が中断してしまうこともあります。また、患者さんはご自身で抗がん剤を飲んでいただく必要がありますので、大きな不安感をもたれることでしょう。そこで、平成26年から当院と地域の保険薬局は患者さんの不安を軽減し、副作用の早期発見と早期対応を行うことでより適正で安全な治療を継続していただくことを目的に、お互い連携をとり情報を共有する体制作りを行いました。

保険薬局では、薬剤師の視点で患者さんのお話や症状から副作用を疑った場合、あるいは食事がとれないなど治療に影響のある生活上の問題点がある場合など、重要な情報を保険薬局の薬剤師から当院薬剤部に専用紙で報告してもらいます。続いて、当院薬剤師がその内容を確認し、主治医に報告を行います。院内外の薬剤師が、副作用を予防・軽減するための提案や相談を主治医にさせていただくこともあります。その報告内容を主治医が確認し、次の診察や治療に活かすという仕組みです。



これらの取り組みが認められ、平成30年度に京都府薬剤師会のがん薬連携事業を行う地域として選定され、新たな取り組みを開始しました。ゼローダ^{やくやくれんけい い じきょう}®という経口抗がん剤に特徴的な副作用である皮膚症状に対して、あらかじめ主治医と具体的な対応手順を決めておき、予防あるいは早期対応を目指す取り組みです。薬剤師が薬学的知識・技能を生かし、皮膚症状の予防や治療用塗り薬の処方確認と、使用方法の説明を行い、次回受診までの間に電話等で症状の有無を確認します。その際副作用である初期の皮膚症状が出ていると判断した場合、あらかじめお渡しした治療用塗り薬の使用を開始していただくよう薬剤師が指示します。そうすることで皮膚症状を適正に予防ができ、症状が出現した場合も、次回受診を待たず治療用の塗り薬を開始することで、次回主治医に診てもらうまで症状の悪化を防ぐことができます。また、体の状態もいっしょに確認することで副作用の早期発見にもつなげることができます。この取り組みは、薬剤師業界の新聞の一面にも取り上げられ、医療従事者対象のサイトでニュースとして取り上げられました。事業としてはいったん終了しましたが、取り組み自体は患者さんをはじめ、各方面からよい反応をいただき、是非継続してほしいとの声もいただいたので継続中です。

まだまだ取り組みが十分とは言い難いですが、当院の医師やスタッフは、医療連携を推進・充実させ、患者さんに最適な医療を提供したいという熱い思いを持っており、このような取り組みを後押ししてくれています。当院と地域の保険薬局薬剤師で一つの地域の「薬局」としての機能を果たし、皆様の健康や治療に寄与できるよう引き続き頑張っていきたいと思っております。患者さんにはこの取り組みの意図を理解していただき、是非薬局を頼っていただけたらと思います。

当院から帰られた後も、地域の医療従事者が一丸となって患者の皆様を見守っております。



教育理念

変動する社会の一員として存在し、自ら楽しんで基礎知識・専門知識を積み重ね、自己能力を開発・向上し、社会に貢献できる人材の育成

1. 感受する能力を高める
2. 理解する能力を深める
3. 表現する能力を豊かにする

どんな看護師になりたいですか？



公立南丹看護専門学校 1年生 K.S.

私は患者さんや家族の方の悩みや不安に寄り添い、親しみやすく信頼される看護師を目指しています。看護師は患者さんの近くにおいて寄り添える立場だと思うので、一番に頼ってもらえるような看護師になりたいです。

信頼される看護師とはどういう人かという話を先生から聞いて、去年亡くなった祖母の事を思い出しました。たくさんの管で繋がれていて、何もわからない私はその姿を見るだけで不安でした。その時担当して下さった看護師さんが、処置の説明や、今後のことも細かく相談してくださって、とても納得し、心が軽くなったのを覚えています。この時の看護師さんのように最後まで患者さんやその家族の方の希望に添うような看護を提供できる看護師になりたいです。

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは・・・

普段の健康状態を把握してくれるもっとも身近な「主治医」のことです。

具合が悪くなったり、困ったときにはいちばんに受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



かかりつけ医についてのご相談は
総合受付①窓口 地域医療連携室 電話 0771-42-5061 (直通)
受付時間 平日8:30~17:15

近隣の連携医療機関の先生方

亀岡市

うまほり西田歯科医院

院長 にしだ ゆきひろ 西田 幸弘

両親ともに亀岡市出身、生まれだけはたまたま兵庫県ですが、亀岡幼稚園に始まり亀岡小学校、はてんか亀岡中学校、亀岡高校出身です。大学6年と研修医2年（補綴科）、一般開業医の勤務医2年と10年間は宮城県仙台市で過ごし、すっかり東北の人になっていましたが、縁あって京都市北区で3年ほど勤務医をさせていただいたあと亀岡に舞い戻ってきました。

平成16年3月に馬堀駅前のテナントで開業、平成24年1月に200メートルほど住宅街に入り込んだ現在地に移転し、おかげさまで通算16年目になります。

移転時には目立たない外観にしたため、初めて来院される方は3回ほど医院の前を通り過ぎてから「どこにありますか？」と電話してこられることも少なくありませんが、地域に根ざした医院を目標にしてい、近隣住民に認知されていれば良いと思っていたことと、最初の駅前での開業時は、診療時間終了後も電気が付いていると駅からの帰りに飛び入りされることが多かったため目立たない外観の医院になっています。

自分が遅くまで診療するのは良いのですが、医院はコ・デンタルのスタッフで成り立っており、到来する人手不足時代をひしひしと感じておりましたので、移転とともに診療時間短縮を段階的に行い、スタッフが長く勤めてくれる医院作りをしています。そのおかげかどうかは分かりませんが、10年以上のスタッフが約半数在籍していて、比較的長期に働いてくれるスタッフに恵まれております。

京都中部総合医療センターには歯科口腔外科への抜歯依頼を始め、他科へも紹介では大変お世話になっており欠かせない存在です。これからも地域の中核病院として住民に愛される病院であることを願ってやみません。今後ともよろしくお願いいたします。



住 所：亀岡市篠町篠見晴15-7

駐車場：あり

Web：http://umahorinisida-dc.com

亀岡市

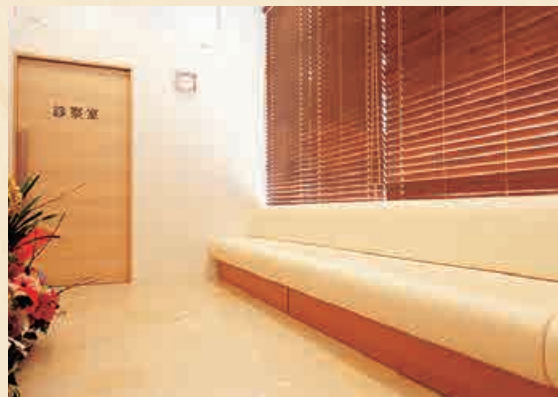
和田眼科

院長 わだ めぐみ 和田 恵美

平成19年に継承し、平成29年にスーパーマツモトうまほり店2階に移転、新規開業しました。小さな医院で、開業以来ずっと同じスタッフでのんびりとしたペースで診察しています。当院では受診された患者さんに、親切丁寧な診察と説明をして、不必要な薬は出さない治療をすることを心がけています。医院の近くに新しい住宅地があり、夜診には子供達も多く受診するので、とても賑やかです。また、以前から要望のあった眼科の往診をはじめました。亀岡市も高齢化が進んでいますので、年齢的に外出が難しくなった患者さん、身体の状態で受診が難しい患者さんのところにお伺いして診察や往診でできる範囲の簡単な処置を行なっています。在宅で快適に過ごせるよう依頼があればすぐ対応するようにしています。亀岡市で対象の方がおられましたら、ご連絡いただければお役に立てると思います。

開業当初から外科的な処置は病院にお世話になるというスタンスで診察をしていますので、京都中部総合医療センターの先生、特に眼科の先生には白内障の手術や、様々な難症例を受け入れていただきお世話になりっぱなしです。

白内障手術はある程度、座ったり、まっすぐ見ることが維持できないと検査が難しく手術に進めないケースがあります。検査が難しいから無理と他所で断られた患者さんを、快く受け入れていただき、患者さんが喜ばれ私まで嬉しくなった事が何度もありました。本当にお世話になりいつも感謝しています。これからも微力ながら地域医療を支える医師として活動してまいりたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



住 所：亀岡市篠町馬堀伊賀ノ辻8-2

スーパーマツモトうまほり店2階

駐車場：あり

Web：https://wada-eye.net

入院される皆さまへ

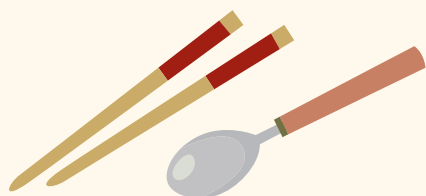
入院時の履き物について



入院される患者さんには快適で安全な入院生活のためにも、転倒・転落に対する認識やご理解、ご協力をお願いしております。入院にあたり、上履きをご用意いただくようお願いしておりますが、転倒や転落を防ぐためにも、ご用意いただく履き物は日頃から履き慣れている「かかと」のついたゴム底の履き物をご用意いただき、スリッパやサンダルはできるだけ避けていただくようお願いいたします。

また本館1階にあるコンビニでも履き物を販売しておりますので、ご利用ください。

お箸・スプーンを配膳しています



6月より入院中のお食事にお箸・スプーンの提供を開始しました。また患者さんが使い慣れたお箸などの使用をご希望される場合には持ち込んでいただく事もできます。

Information



絵画を寄贈いただきました

患者さんより画家の井上辰夫氏の絵画「ダム建設で消える天若の農家」を寄贈いただきました。現在は日吉ダムに沈んでしまった旧日吉町の集落の風景が描かれています。懐かしく感じられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

F80号（約1.4m×1.1m）の大きな絵画です。多くの方に鑑賞していただけるように、放射線科受付の横に展示しています。

京都中部総合医療センター 学術集会

日 時／9月21日(土)
時 間／14:00～17:00
場 所／京都中部総合医療センター
第2病棟5階講堂

*詳細については内容が決定次第、病院ホームページ等にてお知らせいたします。

糖尿病教室予定

毎月第2火曜日
時 間／15:00～16:30

7月16日(火)
講師：薬剤師・管理栄養士
8月20日(火)
講師：医師・管理栄養士
9月17日(火)
講師：医師・管理栄養士

*お問い合わせは京都中部総合医療センター栄養科まで
TEL 0771-42-2510(代)

令和元年度 オープンキャンパス・学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。

●オープンキャンパス

日 時:令和元年8月9日(金)13:00～16:00 (申込受付 令和元年8月2日(金)17時まで)

内 容:学校紹介・学校内見学・体験学習・在校生との交流・個別相談など

*申込人数により募集締切日までに募集を終了する場合がございます。ご了承ください。

●学校見学会

日 時:令和元年8月31日(土)10:00～11:00 (申込受付 令和元年 8月23日(金)17時まで)

令和元年10月26日(土)10:00～11:00 (申込受付 令和元年10月18日(金)17時まで)

内 容:学校紹介・学校内見学・個別相談など

〈申込について〉

①電話またはホームページで次の事項を申し込んでください。

・氏名 ・学校名(在学校or社会人) ・連絡先(TEL)

②同伴される保護者がおられましたら教えてください。

(保護者の方は、体験学習には参加できません。)

受付は30分前より行います。駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1

公立南丹看護専門学校

TEL 0771-42-5364 FAX 0771-42-5422

<http://www.nantan-kango.ac.jp>



看護師・助産師募集(正職員・臨時職員)

◆看護師寮利用できます。(正職員)

月額10,480円(税込)

*水道・光熱費込み

*冷暖房・キッチン・バス・トイレ完備

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



1年目看護師も頑張っています

編集後記

新年度がスタートし3ヶ月が過ぎました。5月には元号も変わり、新しい時代が始まりました。4月に新しく当院に入職した職員もそれぞれの持ち場で頑張っています。令和という新しい時代に南丹医療圏を支える人材として、これからも活躍してほしいと思います。これからも当院を利用される皆さんによりよい医療サービスを提供し、そして楽しく親しみを持ってもらえるような広報誌を作っていけるよう頑張ります。

広報委員 M.N.

